

氏名	永 田 耕 一		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 694 号		
学位授与の日付	昭和50年9月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	慢性肝疾患における肝実質内鉄沈着と血液循環との関係 について		
論文審査委員	教授 大藤 真	教授 平木 潔	教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

慢性肝炎及び肝硬変症における肝実質内鉄沈着の機序を解明する目的でまず慢性肝炎162例及び肝硬変症65例の生検肝組織標本について、実質内鉄沈着の部位を観察すると肝小葉構造の歪みの進展につれ、規則正しいびまん性の分布から、不規則な局在性の分布に移行し、特に肝硬変症では明らかな局在性の分布を示す症例が増加するのを認めた。そこでびまん性鉄沈着を示す2症例（慢性肝炎1例、肝線維症1例）及び局在性鉄沈着を示す慢性肝炎2症例について、生検肝組織の構築法により肝細血管の追跡を行い、鉄沈着との関係を検討したところ、実質内鉄沈着はいずれも第12枝以下の門脈枝周辺に認め、この部位は Rappaport の Zone I に相当した。びまん性鉄沈着を示す症例では、鉄沈着はすべての門脈枝の走向に沿って、門脈枝の両側に規則正しく一様に認め、肝内血液循環はいずれの部位も正常であることが明らかとなった。一方局在性鉄沈着を示す症例では、鉄沈着は多くの門脈枝周辺には認めず、一部の門脈枝周辺に特異的に強く局在し、かつ門脈枝の一側に偏在する傾向を認めた。これらの症例では、肝索の並び方及び Inlet venule に関連した類洞の開き具合の程度、並びに実質肥大の圧迫による肝細血管の圧排像の程度により、血液循環の良好な部位と不良な部位とが混在して出現し、そのうち特に血液循環のより良好な部位に鉄沈着が存在することを証明した。このことから鉄の沈着は、鉄含有量の豊富な血液がより豊かに注ぎ込む類洞の周辺部の肝細胞群に認められ、鉄沈着の機序には良好な血液循環の重要性が推察された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、慢性肝疾患における肝実質内鉄沈着の機序について肝細血管の面から研究したものであるが、従来十分確立されていなかった肝実質内鉄沈着の機序について、血液循環との関係の面から重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。